

U.S. Indicators

発表日: 2024年1月25日(木)

米国 24年1月PMI速報は米民間需要の再加速を示す

～製造業が拡大に転じたうえ、サービス業が加速～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

24年1月のS&Pグローバル米国総合購買担当者指数(PMI)は、52.3(前月50.9)と拡大縮小の分岐点である50を12カ月連続で上回った。また、前月比+1.4%ポイント上昇し、市場予想の51.0(筆者予想51.1)を上回った。1月総合PMIは、同統計調査対象企業活動、民間需要の拡大ペース加速を示した。

製造業は、国内需要の拡大、在庫調整の進展による新規受注、生産の拡大ペース加速を受け、50.3(前月47.9)と前月比2.4%ポイント上昇し、拡大に転じた。また、サービス業は、52.9(前月51.4)と前月比1.5%ポイント上昇、内外での人の移動の活発化による需要の強まりを背景に12カ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回った。

総合新規受注は、製造業、サービス業がともに上昇する形で、52.2(前月51.1)と上昇し、需要の拡大ペース加速を示した。一方、総合雇用は50.7(前月51.6)と低下し、雇用の増加ペース鈍化を示した。製造業が50.2(前月49.5)と上昇し50台を回復したものの、サービス業がコスト削減、ミスマッチを背景に50.8(前月52.0)と大幅に低下した。

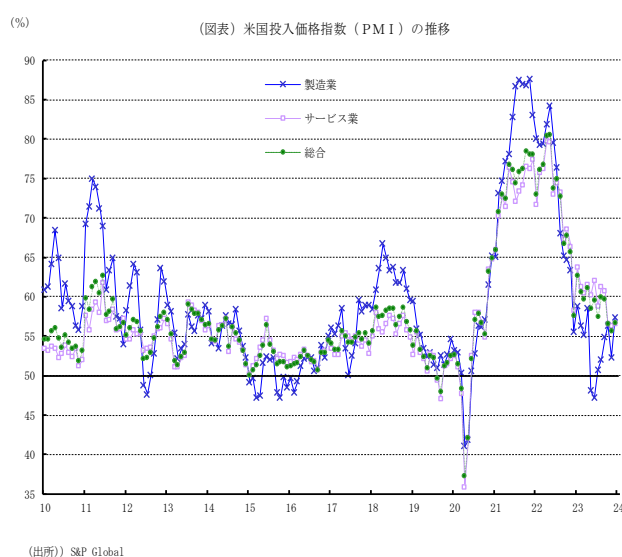
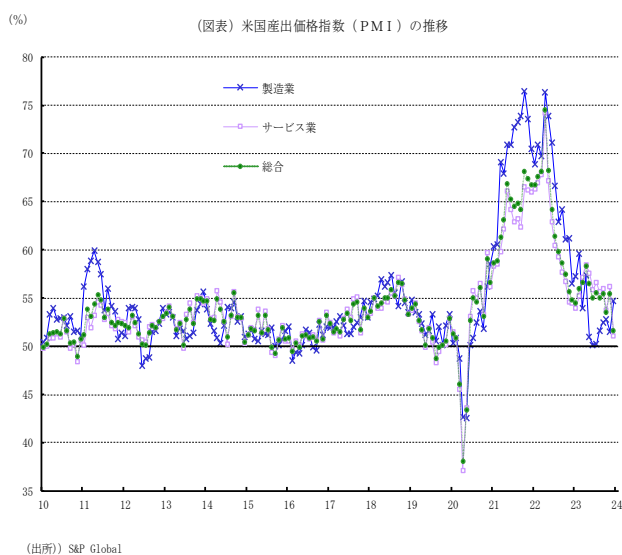
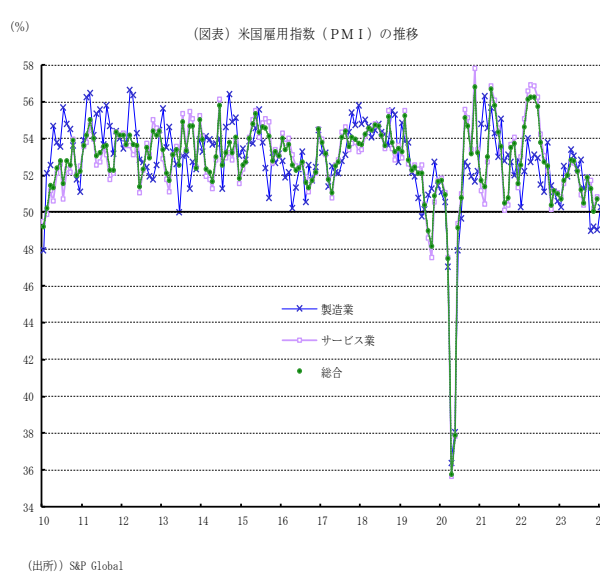
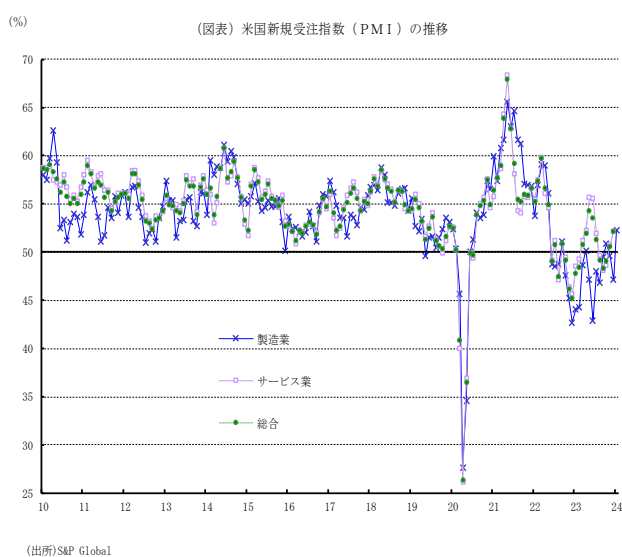
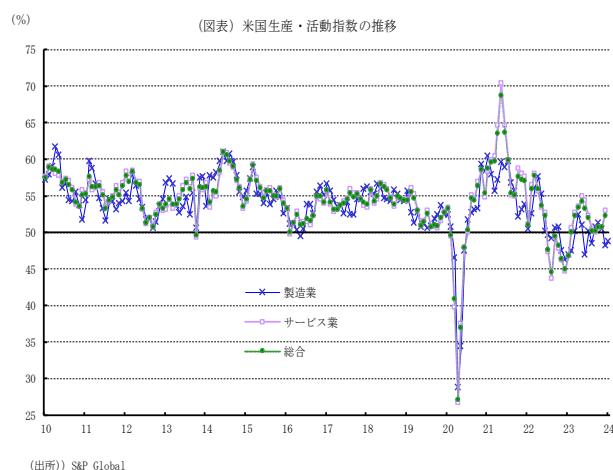
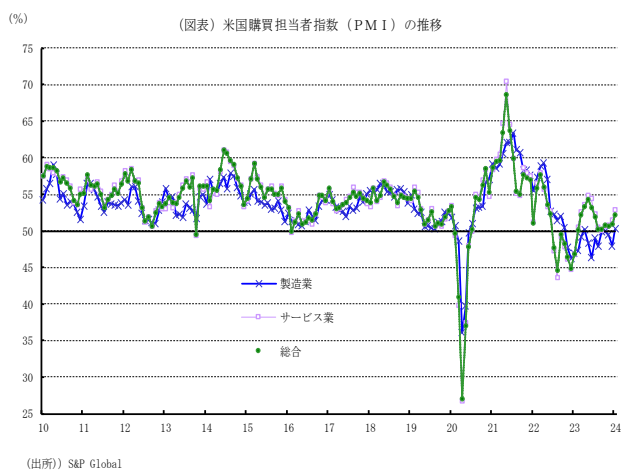
インフレ関連では、投入価格指数が小幅低下にとどまったが、産出価格指数が大幅に低下しており、インフレの低下傾向持続が示唆された。製造業では、投入価格指数が57.4(前月55.3)、産出価格指数が54.7(前月53.6)とともに上昇し、財価格の上昇を示した。一方、サービス業では、投入価格指数が56.7(前月58.3)と低下したうえ、産出価格指数が51.1(前月55.3)と大幅に低下し、サービス価格の上昇ペースの鈍化を示した。

製造業では、新規受注が52.3(前月47.1)、雇用が50.2(前月49.0)、生産が48.7(前月48.1)、在庫が47.9(前月47.6)と上昇した。寄与度では、新規受注が前月比+1.54%ポイント、入荷遅延が前月比+0.39%ポイント、雇用が前月比+0.24%ポイント、生産が前月比+0.14%ポイント、在庫が前月比+0.03%ポイントの押し上げ寄与となった。

サービス業では、活動指数が52.9(前月51.3)と上昇した。信用・金融状況の引き締めにもかわらず、観光・余暇需要の強まり等を背景にサービス業の活動が加速した。また、新規受注が52.2(前月51.9)と上昇し、需要の拡大を示した。さらに、「将来の活動指数」が68.4(前月66.6)と上昇し高い水準を維持しており、サービス関連企業は先行きに対して楽観的な見方を強めている。

総合PMIは、1月に52.3(10-12月期50.7)と上昇し、24年入り後の米民間需要が拡大ペースを加速していることを示している。製造業が50.3(10-12月期49.1)と小幅上昇したほか、サービス業が52.9(10-12月期50.9)と大幅に上昇した。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。